

緩和ケアの ちょっと タメになる話

Vol.2

第2回のテーマはこちら

子どもから「ぼくってもうすぐ死ぬの？」と言われたら

～ドキッとするその言葉～

「ぼくってもうすぐ死ぬの？」

もし子どもからこのような問いかけがあったらどうしますか？自分なりの答えを準備していますか？

このような瞬間は日常の中で突然やってきます。

いざという時にドキッとしないように少し備えておきましょう。

もちろん、完璧な答えはありません。ですが、多くの場面に対応できる言葉があります。

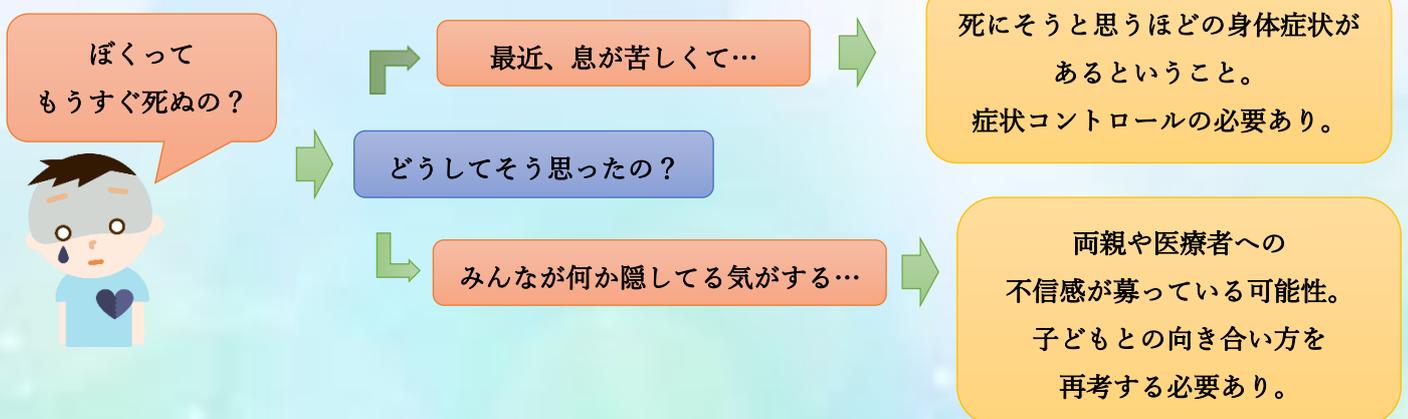
それは「**どうしてそう思ったの？**」です。

子どもの質問に yes/no で答えるのではなく、「**なぜその質問をしたのか**」に焦点を当て、

質問で返すという方法です。多くの場合、その質問をした理由があります。

子どもの口から、その理由を聞いてみましょう。そうすることで見えてくるものもあるはずですよ。

例えば…



「どうしてそう思ったの？」は他にも「死にたい」「生きてる意味なんかない」などの返答に困る場面でも

使えます。少しドキッとする場面でもこの言葉を使えば**子どもの言葉の真意を確認し、**

看護につなげるきっかけとできるかもしれないので、ぜひ覚えておいてください。

腹黒ナースマン